

令和3年度第7回

登別市教育委員会会議録

日 時 令和3年10月28日（木）午後4時30分

場 所 登別市民会館 小会議室

第7回 教育委員会議事日程

1 日 時 令和3年10月28日（木）午後4時30分

2 場 所 登別市民会館 小会議室

3 議 案

報告第13号 教育委員会事務局職員の復職発令に係る臨時代理について

議案第14号 令和2年度教育行政執行事務の管理執行状況の点検・評価報告の作成について

4 情報提供

(1) 新規ALTの概要について

(2) 鬼っ子フォーラムについて

5 出席者

(教育委員会4名)

教育長	武田 博	委 員	赤井 秀輝
委 員	堅田 裕	委 員	木村 雅美

(事務局10名)

教育部長	堀井 貴之	教育部参与	中島 英治
教育部次長	近藤 正嗣	総務グループ総括主幹	近間 聡史
建築主幹	逢坂 義人	学校教育グループ総括主幹	笠井 康之
学務主幹	中井 英和	学校給食センター長	山本 直人
図書館長	綿貫 亨	総務グループ主査	蓬田 匡俊

武田教育長：ただいまの出席委員は4名であります。定足数に達しておりますので、令和3年度第7回教育委員会を開会いたします。

本日の議事については、報告1件、議案1件となっております。

最初に、報告第13号「教育委員会事務局職員の復職発令に係る臨時代理について」を議題としますが、本件については、報告内容に個人情報が含まれますので、

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第7項のただし書き」により非公開とすることを発議しますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

武田教育長：異議無いものと認めます。報告第13号については非公開とすることに決定されました。関係者以外、傍聴者も含めて退室と会場の閉鎖をお願いします。

〔関係者以外退室、会場閉鎖〕

〔会場開鎖〕

武田教育長：次に、議案第14号「令和2年度教育行政執行事務の管理執行状況の点検・評価報告の作成について」を議題とします。

事務局からの説明をお願いします。

中島参与：令和2年度「教育委員会点検・評価報告書」案を作成しましたので、報告いたします。

この報告書は、平成19年に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たすため、教育委員会が所管する事務の管理・執行状況を内部で点検・評価を行い、学識経験者の知見を受けて報告書にまとめ、市議会に提出するとともに、広く公表するものであります。

教育委員会の評価は、市長部局における事務事業評価によって効果的に進められておりますが、この点検・評価は、それとは別に、教育委員会の活動を組織的、継続的に改善し教育行政の担い手としての役割を果たすことを目的とし、「教育委員会の活動状況」や「教育行政執行方針」の重点施策の達成状況を検証するものであります。

実際には、教育行政執行方針に位置付けられている19の重点項目のそれぞれについて自己評価を行うとともに、A～Dの4段階で評価を行い、学識経験者からの意見、助言を受けるという形になっております。

今年度は9月24日に懇談会を開催する予定でしたが、緊急事態宣言の期間延長により、書面にて学識経験者からご意見・ご助言をいただきました。報告書の59ページから62ページに記載しております。

主なものとして、「3 学力の向上 学校図書館」では、算数・数学に課題が見られるということだが、根本は国語教育なのではないか。長文読解力はすべての科目

において必要なことであり、論理的に物事を考えることが苦手な人が多いのではないか。「5 教職員の指導力の向上」では、小中共通の学習規律、習慣化させたい10項目は、授業を進める基盤なので最重要課題として進めて欲しい。校務支援システムを大いに活用し、教職員の仕事軽減につなげて欲しい。「6 情報教育」では、一つの授業で取り扱うという状況ではなく、どの科目も何らかの形でICTを活用している形が望ましい。教科に偏らず、様々なICTの利用方法について検討していただきたい。「10 不登校・いじめ対策」では、コロナ禍になり、不登校・いじめが増加している。いろいろなケースがあるが、早期発見・早期対応しかないようである。子どもの心が離れていかないように、何か気づいたら、声を掛け合うなど、相談件数の変化など、その月々の傾向を学校便り等で一声あるといい。「17 文化・スポーツの振興」では、地域スポーツのあり方検討委員会が多くの団体で構成され開催されたことの意義は大きく、今後、会からの提案等を期待したい。全体を通しては、コロナ禍における事業等の未実施や中止はやむをえない対応と考える。よって、本年度の評定が下がっているととらえたい。

などのご意見をいただき、再度、部内で検討した結果、57ページから59ページにありますように、19項目のうちの7項目、「英語教育」「豊かな心の育成」「安全教育 学校の耐震化」「特別支援教育」「青少年の健全育成」「学校給食」「図書館」をA評定とし、それ以外をB評定とさせていただきました。

本日ご承認いただければ、本報告書を議会に提出して公表という流れとなります。議会提出後は速やかに教育委員会HPにアップすることで、市民への公表となります。以上でございます。

武田教育長：ただ今、議案第14号について、説明がありました。年度当初の教育行政執行方針を評価項目にしておりますが、意見があればお伺いしたいと思います。

ボリュームもあるので、3つぐらいの分野に分けて意見をお伺いできればと考えております。

1つ目は、教育委員会の開催に基づく点検評価、活動状況の報告について、ご意見をいただければと思います。

次に学校教育全般について、最後に社会教育並びに図書館、給食センター業務等について、ご意見をいただければと思います。

最初に教育委員会の活動状況について、ご意見があれば、いただければと思います。

堅田委員：結局、コロナ禍で学校への訪問もできなかつたりということに、残念ながら尽きてしまうのかなと思います。

例えば、オンラインを活用して学校やいろんなところに繋げて意見交換をするということも、今後、検討してもよいのかなという気がします。

武田教育長：国の予算要求が徐々に見えてきていますが、堅田委員が言われるような取組にも力を入れるような、学校が非常に多忙な状況になっているので、そこを支援しようという動きがあるようです。

ほかにございませんか。

中島参与：昨年度は5月が第1回の会議で、4月がコロナ禍で開催できなくなりました。それだけではないんですが、学校現場もみんなで集まって話し合ったり、物事を進めていたものが、オンラインで研修をしたり、授業参観もオンライン実施するというようなことも進んでいます。

いろんなことができなくなったと考えるとマイナスになりますが、学校は非常に努力していて、これをプラスに考えて、この状況でも何とかできるように、そして、校内でも大勢集まって行事をしたり、何か取組をしたりはなかなかできない状況にあり、今回、学校祭や学芸会も学年ごとに行いましたので、教室でほかの学年の演劇を見たりとかということもしていました。

教育委員会の会議に限らず、社会全体がこれをプラスに考えていかなければならない時代になったんだなと感じるとともに、学校としてもプラスに考えて頑張っていることを伝えします。

武田教育長：ほかにございませんか。なければ、次に学校教育全般について、ご意見があればお願いいたします。

中島参与：私から質問したいことがあるんですが、よろしいですか。

武田教育長：どうぞ。

中島参与：意見を紹介した中に、算数・数学に課題が見られるということは、根本は国語教育ではないかという意見もいただいて、そのとおりだなと思うのですが、9月の教育委員会で中井学務主幹から説明がありましたように、国語に関しては、全国学力学習状況調査からも、市内の子どもたちも頑張っていて、全国平均に近づいているという結果が出ているんですが、理由といいますか、市内で小学校の学校司書を導入してきたという経緯があって、読書活動をうちの市は力を入れてきたというのが大きいかなと思うんです。

それが、17ページの貸し出し冊数、貸出人数というところ、平成26年度、平成29年度、令和2年度と冊数も人数も着実に伸びているというところが、数値でわかるかなと思います。

今年度は10月から、緑陽中学校と西陵中学校の2校に学校司書ひとりの段階ですが、入れております。

今、ここにある数字は小学校のみですが、中学校の冊数人数の伸びにも今後数値で明らかにしていって、そして学力にも繋がっていけばと考えております。

学校司書がいるとビブリオバトルをやってみたり、図書館においてある本を子ども読みやすい配置にしたり、ポップをつけて子どもたちに興味を抱かせたりなどをしてくれるので、それを期待しているんですが、木村委員にお伺いしますが、幼稚園の子どもたちに、読書習慣とか本に興味を持たせるような取組というのがあれば、参考にお聞かせ願いたいのですが。

木村委員：4才になると、毎日一冊本を読んでいます。孫がいるんですが、今日の朝も図鑑を2冊読んで、火垂るの墓を読んでいます。

5才になるんですけども、遊びの一環として、常に本を家の中、幼稚園の中に置いています。

そして、図書館からも毎月100冊を借りて、図書館の本は登別市内のすべてを読みつくしたという子もいるぐらい、とにかく本にはたくさん触れて自分で読めるようにしています。

3歳だとまだ読めない子がいるので、とにかく読んであげて、音で入れてあげています。音と文字があうようにしゃべりながら、子どもは瞬時に見抜く力があるので、子どもはページをめくりたがりますよね。あれは、読んでしまっているんです。

その力をしっかり生かして、パッパッパッとやっていると瞬時に子どもたちは言っていくので、それを毎日やると、あっという間に覚えてしまうんです。

ご飯を食べながら九九の音を流したりも、音として拾って行って、数字としては覚えていないのですが、音楽として覚えているので、言葉を教える時も音であそぶように、「あ・い・う・え・お」を全部歌で覚えさせて行って、読めるようになると、ほおっていてもどんどん読んでいくので、卒園するまでに2000冊を読むぐらい、絵本はたくさんたくさん読んで進級します。

小学校に入った時に、先生たちにご苦勞をかけないように、勉強してから遊びに行くという習慣をつけるためにも、毎日、宅習と行って、土日も勉強を持たせて、毎日やらないと寝れないよ、すっきりしないよ、と歯ブラシみたいな習慣として、強制ではないんですけど、やりたくないときは1ページやらないで一文字とか、とにかく歯磨き習慣みたいに、そういう習慣をつけて小学校にあげさせたいなと思っています。

本は常に周りであって、新しい本が毎月続々くるような感じですか。予算が余ったら絵本を買っています。子どもなので、本はどんどん悪くなってしまふので、先ほど言ったように本を置くときも大きさとかを分けながら、興味を持てるような構成を作っています。

子どもたちが楽しんで読書ができるような環境を日々心がけて、毎日勉強しています。

中島参与：中学生にも読み聞かせのようなことをやったら良いのかもしれないですね。小学生は結構読み聞かせをしている学校もあるんです。中学校はなかなか部活はあったり、忙しかったりします。

武田教育長：登別市は、少し早い時から、読書活動は力を入れてきたつもりでいるんですよ。

赤井委員：今の話ですけども、うちの2年生の孫が3年間お世話になりました。1000冊読んだら、本をいただけるんですよ。その本が、またなかなか良い本で、何回も繰り返して読んでいたんですが、卒園までに2000冊までは行きませんでした。

ただ、小学生になってからは、子どもの読書に対する親の考えが非常に多様というか、スポーツをやらせたり、いろんなことをするので、幼稚園の場合は、すごく目標というのがあって、幼稚園に行っても読むし、帰ってきて読むし、小学生になってからは、親の考え方で差が出てくるのかなという感じはします。そういうところも、気になっている部分です。

子どもっていろんな発達段階によって、字を一字一字読むとか、単語の部分を読むとか、次に文章が読めるようになる。

借りる時に、子どもにあった本をわかるように置いてくれば、子どもたちも見やすいかな。自分でやれば一番いいんでしょうけども、小さい子どもはそういうことはできないので、大人が一つ一つ見て、今の子どもにあった本を探す必要があります。

あれが、ちょっと大変かなって。ただやっぱり、小学生は家庭学習がとっても大事だということが学力の問題で言われていて、それと関係するのは、私も読書かなと。

そういうことで言うと、文章をつかって問題を作ったり、答えを出したりしなければならぬ問題は、正答率はやっぱり落ちますね。その辺が繋がっているというのは、子どもの発達や成績などを見ても、実感していますね。

武田教育長：図書館行政について、綿貫館長いかがですか。ブックスタートからスタートして動機付けさせて、登別の図書館は児童図書は充実しているんじゃないかなと思っていますが、そこも含めて。

綿貫館長：17ページに載っている中には、図書館が担当しているものはかなりありまして、「学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議」というのは、私が来てから始めたんです。学校と図書館で年に1回集まって、選書をしたり、研修をしたり情報提供をやらないかということで始めました。

あと、ここにある「小学校への団体貸出」についても、図書館が行っているものです。あと「小・中学生の読書感想文・感想画コンクール」もそうです。

今おっしゃられたように、コロポックルさんですとか、市内の児童館に毎月本を運んだりとか、見えないことをやっています。

幼稚園とか保育所とかに本を置くだけではなくて、児童館とか児童センターとか、市内にある病院の保育施設にも本を運んだり、見えないことをやっています、そういうことをやっているのは、この近辺では登別市だけです。あまり図書館の活動はご覧いただけないんですけど、今お話があったように「ブックスタート」それからセカンドブックスタートである「ライブラリースタート」3歳児ですね。小学校の学校司書、10月から中学校の学校司書というように、当市の図書館行政は決して後退しているとは思いません。

図書館は古くて狭隘だというのはあるんですけど、先ほど委員の言われた本の並べ方についても、いろいろ工夫してまして、例えば、非常にまずいところでは、出版社別に並べるとか、そういうことをやっているんですけども、当市は例えば「のりもの」の本ですとか、テーマごとに並べて分けていたりとか、職員も工夫しています。広かったら例えば面出しといって、本の表紙を出してだとか、「きらん」とかはそういう出し方をしているんですけども、うちもやりたいと言っているんですけども、なにぶんスペースが無いもんですからできること、できないことはあるんですけども、今言ったように、そういう工夫はしています。

毎日のように学校司書から電話が来て、こういう本を揃えてほしいですとか、今日も来ていますし、学校図書館の活動を見えない形で図書館が支えているという点もお話しておきたいと思います。以上です。

武田教育長：毎年の図書要覧もしっかりデータを出していただいているので、その辺は、充実した取組をしているかなと。3年から4年ほど前に西陵中学校も道の方から逆の指定を受けて、ビブリオバトルなんかも指定の取組として引き受けております。そういう事業を引き受ける力が、登別市にはあるのかなと思っています。

中島参与：当時は、司書教諭が2名いて、一生懸命頑張ってくれていたんです。正月の福袋ならぬ福本といって、福袋の本バージョンで何が入っているかわからないよう、本を3冊から5冊袋の中に入れて、そこには〇〇先生のおすすめの5冊というようなそんな企画をやっていました。やっぱり司書教諭とか学校司書が少しずつ入ってきて、そんな一般の先生が考えつかないようなアイデアを先進的に取り入れていた西陵中学校に、道教委からお声がかかった経緯があったんです。

その取組がその学校だけで終わらず、市内全体に広がっていけば、どんどん広がりを見せるのかなと思いました。

武田教育長：ありがとうございます。現場では一生懸命取り組んでいます。合わせて教育委員会としてもサポートしていく体制もできているかと思います。

ほかにございませんか。

武田教育長：なければ、生涯学習以降で何かございましたら、ご意見等をいただければと思います。

コロナの影響もあって、地域学校協働本部などは、運営協議会の開催が難しい時もあったようですが、よろしいですか。

中島参与：社会教育で言えば、45ページのふるさと教育というところでも、学識経験者からご意見をいただいていますし、社会教育も一生懸命やっているんですね。

子どもたちは、この郷土への誇りとか愛着心をもてるような取組を受けているところなんですけど、62ページの全体を通して、教育長から話があった地域学校協働本部などもあるんですけど「学校の先生方一人一人が地域社会のリーダーであり」という言葉が響きまして、我々もリーダーだという話もありますけども、学校の先生方は、登別市内だけをぐるぐると移動するわけではなくて、胆振管内を点々と回るんですよ。

そうすると登別を知らないまま、6年という縛りがありますので、6年経ったらほかの地域に移動すると、とってもさみしいなあと思っていて、なるべく長くうちの市にいて欲しいんですけども、そうは行かないので、先生方に地域に目を向けてもらう取組といいますか、子どもたちはふるさとを愛するような取組を学校が考えていますし、教育委員会も考えていますが、先生方がこの地域にもっと目を向けてもらえるような、先生方が地域を知らない子どもたちに指導もできないので、市内の先生方にもっともっと登別を知ってほしいなと私は思うんです。

堅田委員、よろしければ、先生方に登別のもっともっと学んでほしいところがございますか。

堅田委員：そういわれると、まさにそうだなと思うんですけども、今、話聞いて浮かんだのが、例えば夏休みとかに先生方のバスツアーで登別の名所とかを回って、ガイドさんに説明してもらおうとかっていうのだと、参加しやすいのかなと思います。

中島参与：今年度はコロナでできなかつたんですが、初任の先生を集めて、地質学の先生に学習をお願いしたりはしていました。

武田教育長：バスツアーなんかもいいですよ。倉沢先生が資料をもって来られた時に、こういう登別の特色というのを、一般の先生もってよく言っていました。

先生方もなかなか多忙で、そろってというのは、今、ネイチャーセンターなんかでは、是非、先生方に来ていただいて、先生方に生徒を指導してほしいんだと。ネイチャーセンターの職員に協力を求めるのではなくて、先生方が自由に自らが指導してもらいたい。先生も宿泊研修に行っていると思うんですけども、そういうことでやはり地域の良さをどんどん知っていただいて、どうやって子どもたちに影響を与えるのか、郷土愛というのを育てて行く必要があるのかなと思います。

赤井委員：私は、それは土曜授業ではないかと思うんですけども。土曜授業が始まった時の趣旨はですね、学力をあげるためのものではないんだと、だから、そこに教科ではない授業に関係したものでいうと、そこに地域の人が入ってくるような形を期待していたんですよ。

それが、コミュニティスクールと関係してくるだろうし、そこをコーディネートする地域の人と、コーディネートする学校側の間がないと繋がっていかないのではないかと。

土曜授業の時間を一時間とかに切らないで、もっと自由な形のものが欲しいなと感じていました。

なかなか難しいんですけども、スマホの講習をやったりといろいろ講師が来ている事業もやっているんですけども、もっともっとこれから取り入れて欲しいなと。

中島参与：9ページに土曜授業の取組状況もあるんですけども、今7年目になりますが、スタート時は、1時間目から3時間目まで授業という時間は少なかったんです。様々な取組があって、地域の方の話を聞いたりというのもあったんですけども、コロナ禍もあり、授業時数を進めなければならないという事情もあって、今回、授業というのが、だいぶ入ってしまったというのがあります。

もう一度、原点に戻って、コーディネーターの働きも非常に大きいと思いますので、そういったあたりは、学校の管理職も結構入れ替わって、導入の趣旨というのでも理解が薄れているなというのがありますので、十分周知していきます。

武田教育長：常に原点に帰りながら、コミュニティースクールもそうですし、校長先生が移動してしまうと、新しく来た校長先生が、まだ、これから始めようとするところもありますし、赴任したばかりでどういう取組をしたら良いのか、というところも結構あります。

胆振管内は早いですが、それでも苫小牧とか一部できてないところもありますから、そんな環境ですが、コミュニティースクール、協働本部事業、あるいは土曜授業だとか、枠の中で、取り組んでもらえるよう、指導室から働き掛けをしていきたいと思います。

武田教育長：給食は工夫していて、郷土愛を支えています。やはり、条件があるというか、ある程度手間のかかるものは省略しなければならないですとか、限られた食材の中でできる限りのことをやっています。

登別の場合は、酪農館がございますので、地域の生乳をそのままいただいて、低温殺菌で風味を逃がさないで給食に提供していただいています。

赤井委員：評価がコロナの影響でAからBになったという評価をしていいのかなのか。

中島参与：それを差し引いて評価をしなければならないのかなとも思いましたが、少し厳しめに評価をしました。

武田教育長：議論をしたんですよね、ただ、どんな環境の変化にも対応していかなければならないという部分もありますから、それを横においてということにはいかないかなど。内容によっては、加味して判断したものもございます。

赤井委員：自己評価ですよね、自己評価でコロナの影響を受けましたので、B評価ですって、なんとなく腑に落ちない気がします。

中島参与：学識経験者からも評価を上げてよいいのではないかという話もいただいたんですが、厳しめに評価したところでもあります。

武田教育長：これをもって質疑を終わります。この件について、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

武田教育長：異議ないものと認めます。したがって、議案第14号については、原案のとおり決しました。

以上で本日の議事は全て終了しました。

次に、事務局から情報提供をお願いします。

笠井学校教育グループ総括主幹：情報提供（1）「新規ALTの概要について」であります。

本市の外国語指導助手、ALTは、4名体制で各小中学校の指導を行っておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響で、後任のALTの来日が遅れており、2名体制となっております。

この度、10月18日に新たなALTが着任しましたのでご紹介します。

トレヴァー・ジョセフ・ヨホンさん、21歳のアメリカ人男性です。

トレバーさんの日本語能力は、読み書きが中級レベル、話す・聞くが準上級レベルとなっています。

トレバーさんの出身地は、カンザス州のオーバーランドパークというところで、概要は資料のとおりです。

なお、あと1名の後任ALTが着任しておりませんが、年内に着任の予定であります。私からは、以上です。

中島参与：状況提供（2）「鬼っ子フォーラムについて」であります。

委員の皆様のお手元に、「鬼っ子フォーラム」のしおりをお配りしました。先月の定例の教育委員会で情報提供した、11月1日の登別市民会館大ホールで行われるフォーラムです。

これは、再発防止策の最も大きな教育委員会の主催行事となるものですので、委員の皆様のご都合がよろしければ、参加いただきたいと考えております。

赤井委員には、閉会式で教育委員ご挨拶というところで、感想・講評をいただければと思っております。

1枚めくっていただいて、プログラムにありますように、前半は各学校の取組の紹介をしていただきます。

小学校8校、中学校5校、高等学校2校と市内にある学校15校の取組を、各学校3分間、スライドをステージの後方に写しながら、各学校の代表がこれを説明するというのが前半です。

後半は、小学校2名、中学校2名、高等学校2名の計6名が、プログラムの3番、トークセッションで、この取組を聞いた感想ですとか、さらに4月から取り組んできた各学校のみんなが通いたくなる学校にするためにはという取組を受けて、さらによりよい学校にするためにはどんな学校にしたらよいかというような話を、室蘭

工業大学の清末教授にコーディネーターをお願いして、引き出してもらうこととしております。

時間は30分と短い時間となりますが、この6人プラス教授をお願いしています。

この最後には「鬼っ子宣言」を發表します。ただ、本番にこの6人が集まっていきなりというのは難しいですので、今まで計2回ワークショップを開催して、いろんな意見を出し合って原案を作っております。

これが、一番最後のページにつけてあります「鬼っ子宣言」、原案はすでにできておりますので、これを最後に承認してもらって、この後の市内の学校の取組をさらに充実させていただく、その後さらに、ピンクシャツデーというものを提案してもらうことになっています。この「鬼っ子宣言」もピンクシャツの取組も、主体的に子ども達が考えてくれた取組で、このピンクシャツをトークセッションに参加した6名が着て、2月にみんなでピンクのシャツを着ませんかという提案をします。ご都合がつけば、ご覧いただければと思います。

以上です。

武田教育長：そのほか、情報提供等ございませんか。

本日、堅田委員から情報提供がありましたので、堅田委員、お願いいたします。

堅田委員：業界紙に「コロナ禍と子どもの健康―日常を取り戻すために」という特集がありましたので、皆様に情報提供として、参考にさせていただければと思います。

武田教育長：それでは、すべての案件が終了しましたので、最後に11月の教育委員会の開催日について予定したいと思いますが、次回の開催日について、事務局の方で考えがあればお願いします。

近間総務グループ総括主幹：定例の教育委員会につきましては、毎月最終木曜日に開催しておりますので、11月の教育委員会につきましては、11月25日木曜日16時30分からと考えておりますが、例年11月につきましては、移動の教育委員会を行っておりますので、昨年度はコロナの影響で行うことができませんでしたが、今年度は移動での開催を検討させていただいて、ご連絡させていただきたいと思います。

武田教育長：それでは、事務局より提案のありました11月25日木曜日で皆様のご都合は如何でしょうか。

(「大丈夫です」との声あり)

武田教育長：では、決定とさせていただきます。詳細につきましては、後日事務局よりお知らせ願います。

以上で本日の会議を閉会いたします。お疲れ様でした。